

# 月例経済報告等に関する関係閣僚会議資料

平成28年9月16日  
内閣府

## 〈日本経済の基調判断〉

### 〈現状〉

- ・景気は、このところ弱さもみられるが、緩やかな回復基調が続いている。
- ・消費者物価は、横ばいとなっている。

### 〈先行き〉

先行きについては、雇用・所得環境の改善が続くなかで、各種政策の効果もあって、緩やかな回復に向かうことが期待される。ただし、海外経済で弱さがみられており、中国を始めとするアジア新興国や資源国等の景気が下振れし、我が国の景気が下押しされるリスクがある。また、英国のEU離脱問題など、海外経済の不確実性の高まりや金融資本市場の変動の影響に留意する必要がある。

## 〈政策の基本的態度〉

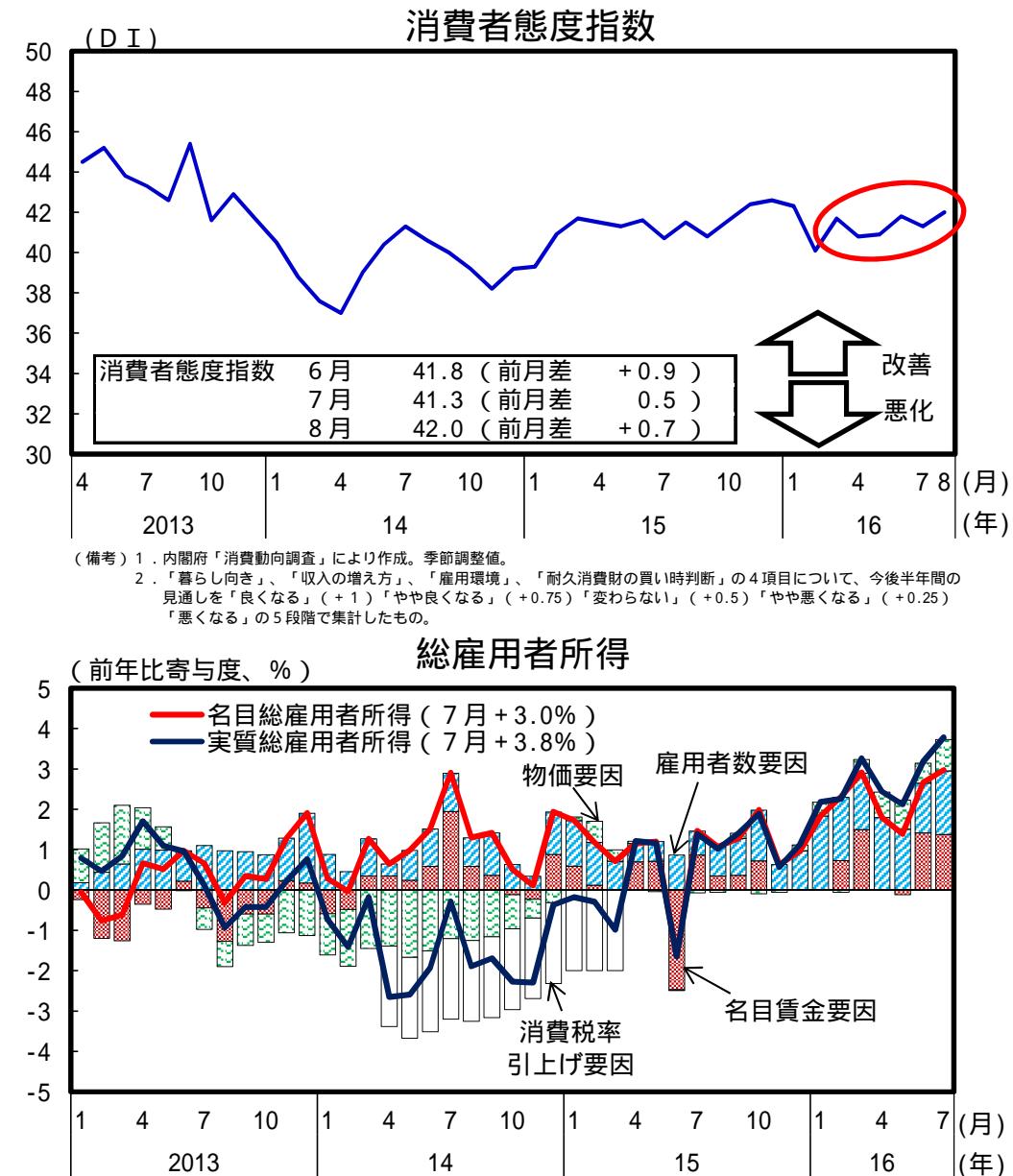
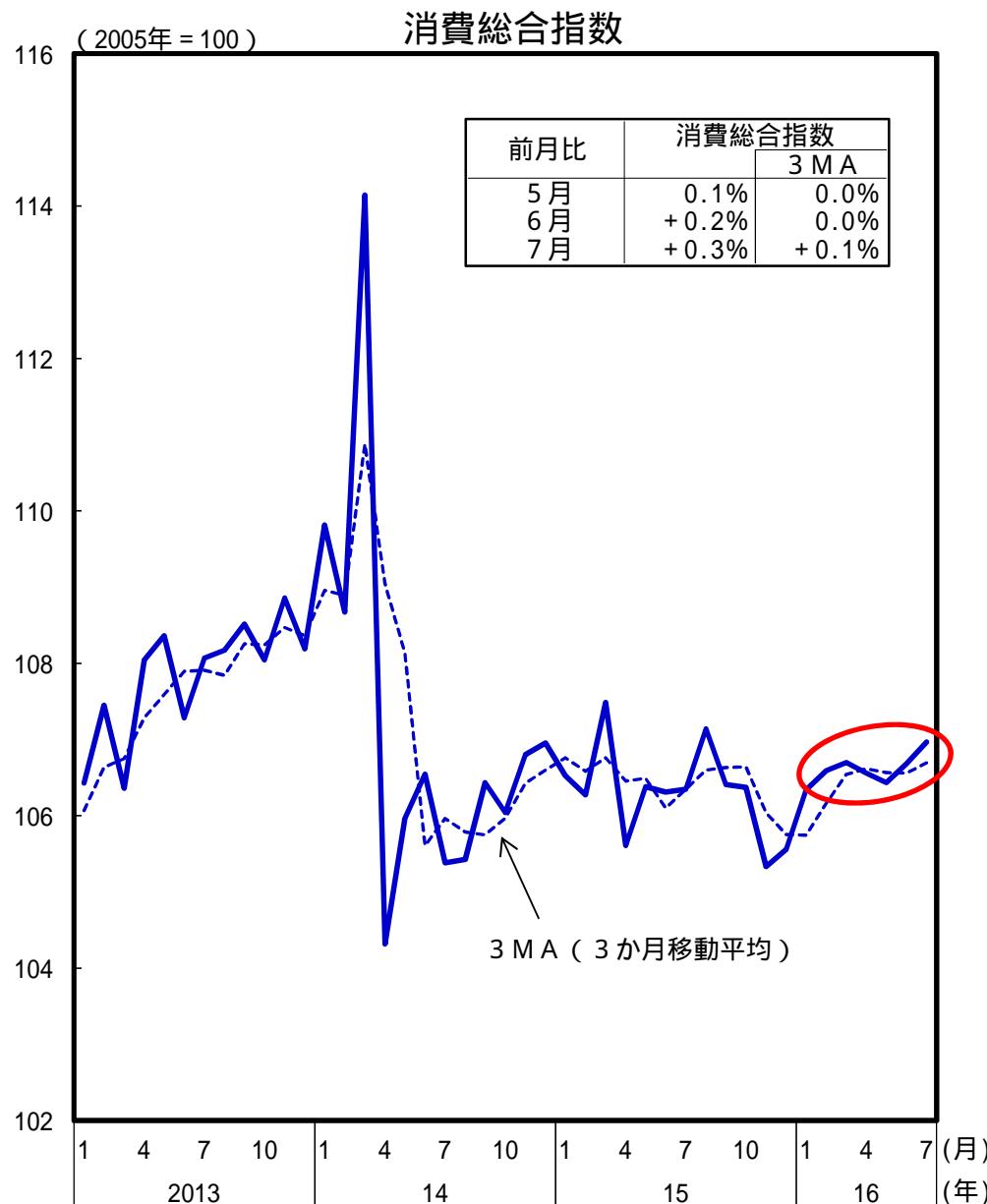
政府は、東日本大震災からの復興・創生に向けて取り組むとともに、デフレからの脱却を確実なものとし、経済再生と財政健全化の双方を同時に実現していく。このため、「経済財政運営と改革の基本方針2016」、「日本再興戦略2016」、「規制改革実施計画」、「まち・ひと・しごと創生基本方針2016」及び「ニッポン一億総活躍プラン」を着実に実行する。また、平成27年度補正予算を迅速かつ着実に実施するとともに、平成28年度予算について、できる限り上半期に前倒して実施する。さらに、働き方改革に取り組み、年度内を目途に「働き方改革」の具体的な実行計画を取りまとめるとともに、デフレから完全に脱却し、しっかりと成長していく道筋をつけるため、「未来への投資を実現する経済対策」を実施する。

平成28年度補正予算等を活用することにより、平成28年(2016年)熊本地震による被災者の生活への支援等に万全を期すとともに、地域経済の早期回復や産業復旧に取り組む。

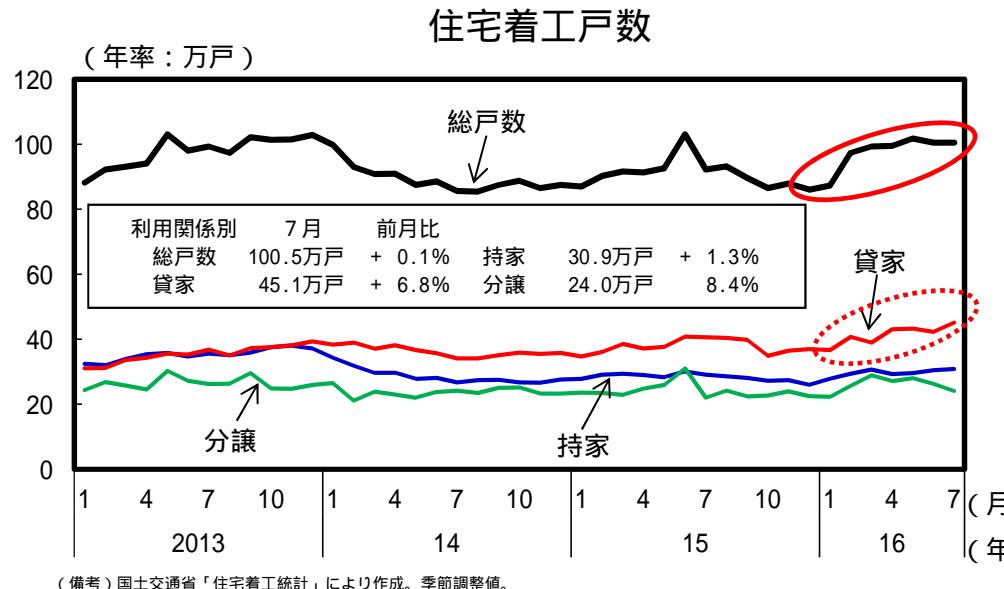
これらにより、好調な企業収益を、投資の増加や賃上げ・雇用環境の更なる改善等につなげ、地域や中小・小規模事業者も含めた経済の好循環の更なる拡大を実現する。

日本銀行には、経済・物価情勢を踏まえつつ、2%の物価安定目標を実現することを期待する。

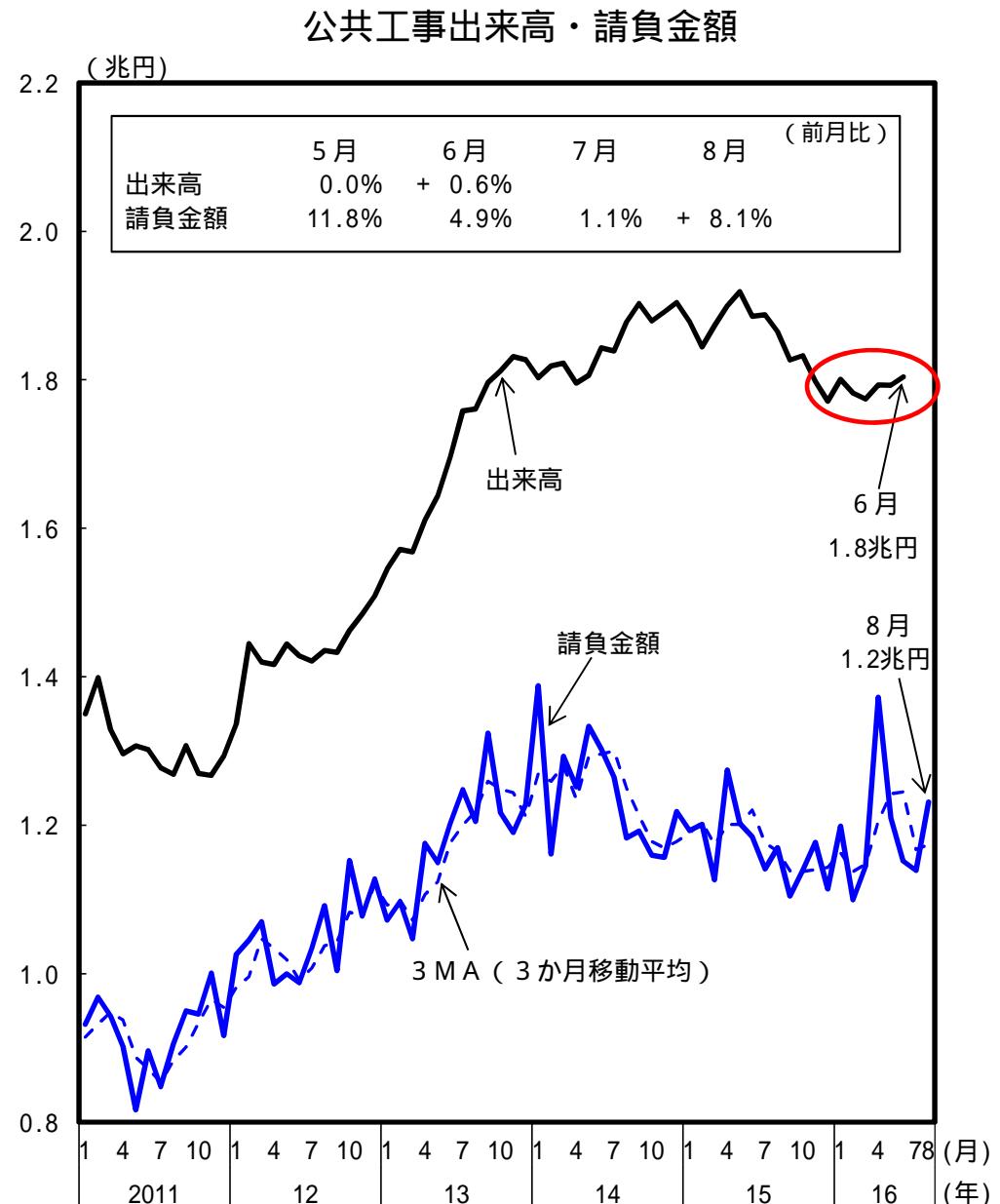
# 個人消費：総じてみれば底堅い動き



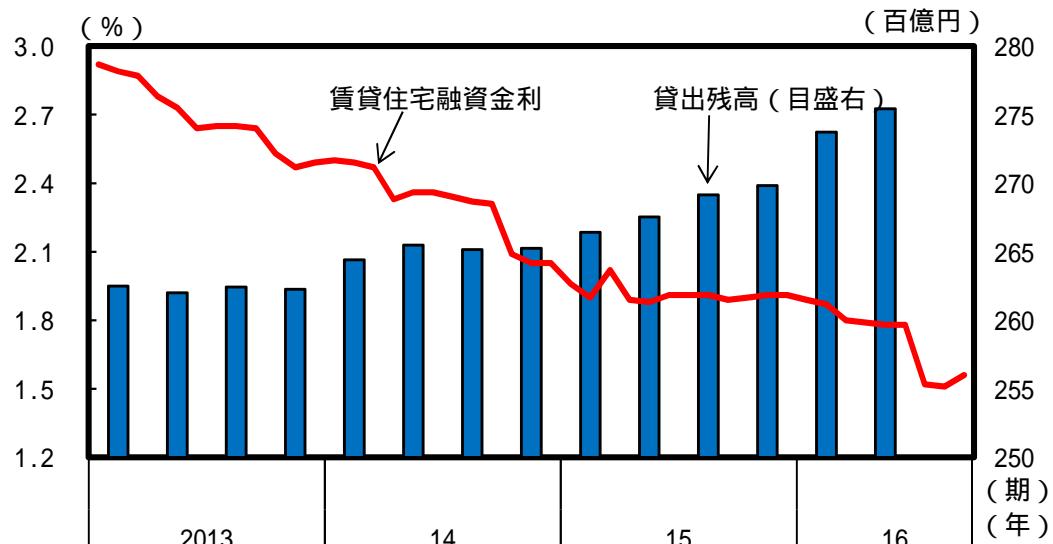
## 住宅建設：持ち直している



## 公共投資：このところ底堅い動き

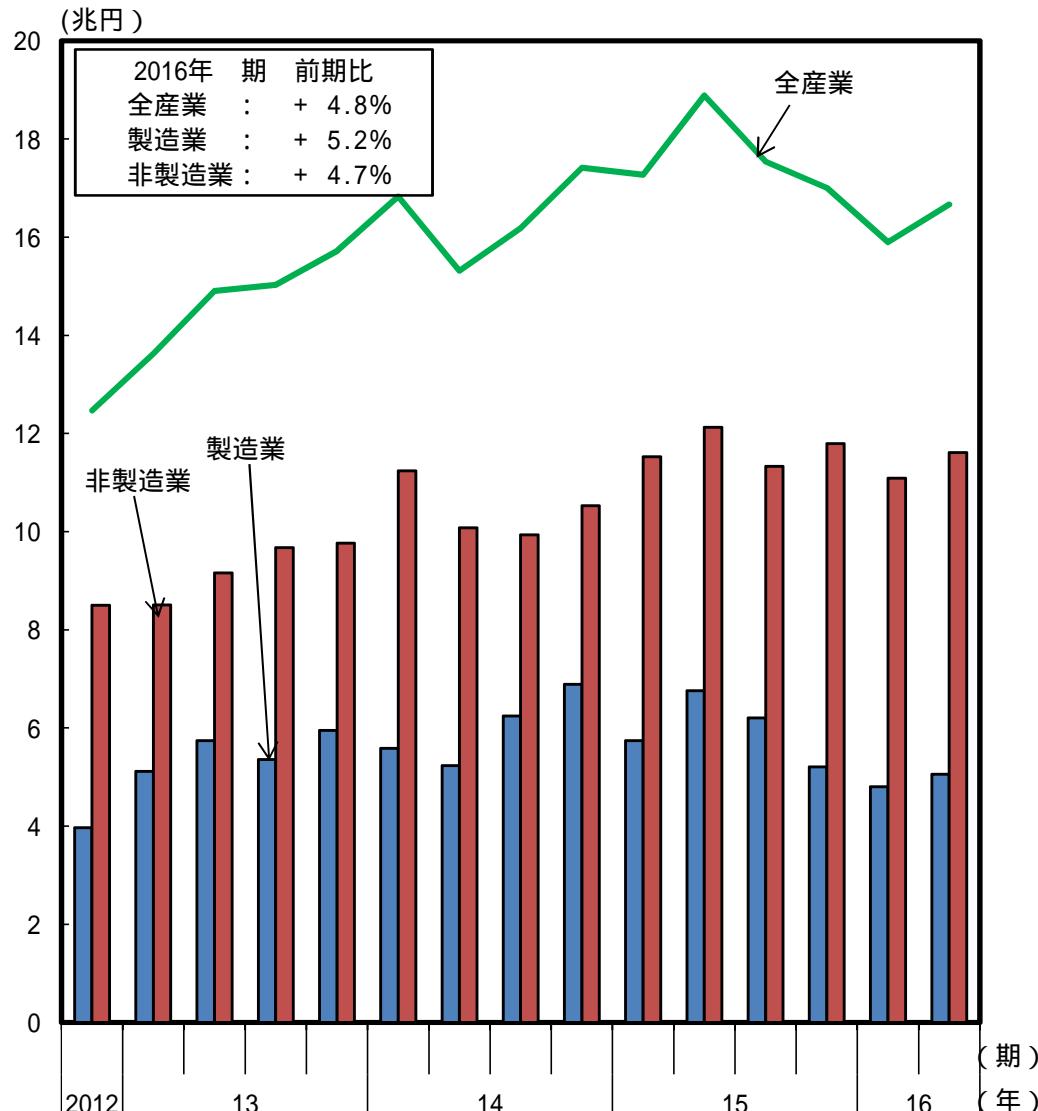


## 賃貸住宅融資金利と個人による貸家業への貸出残高

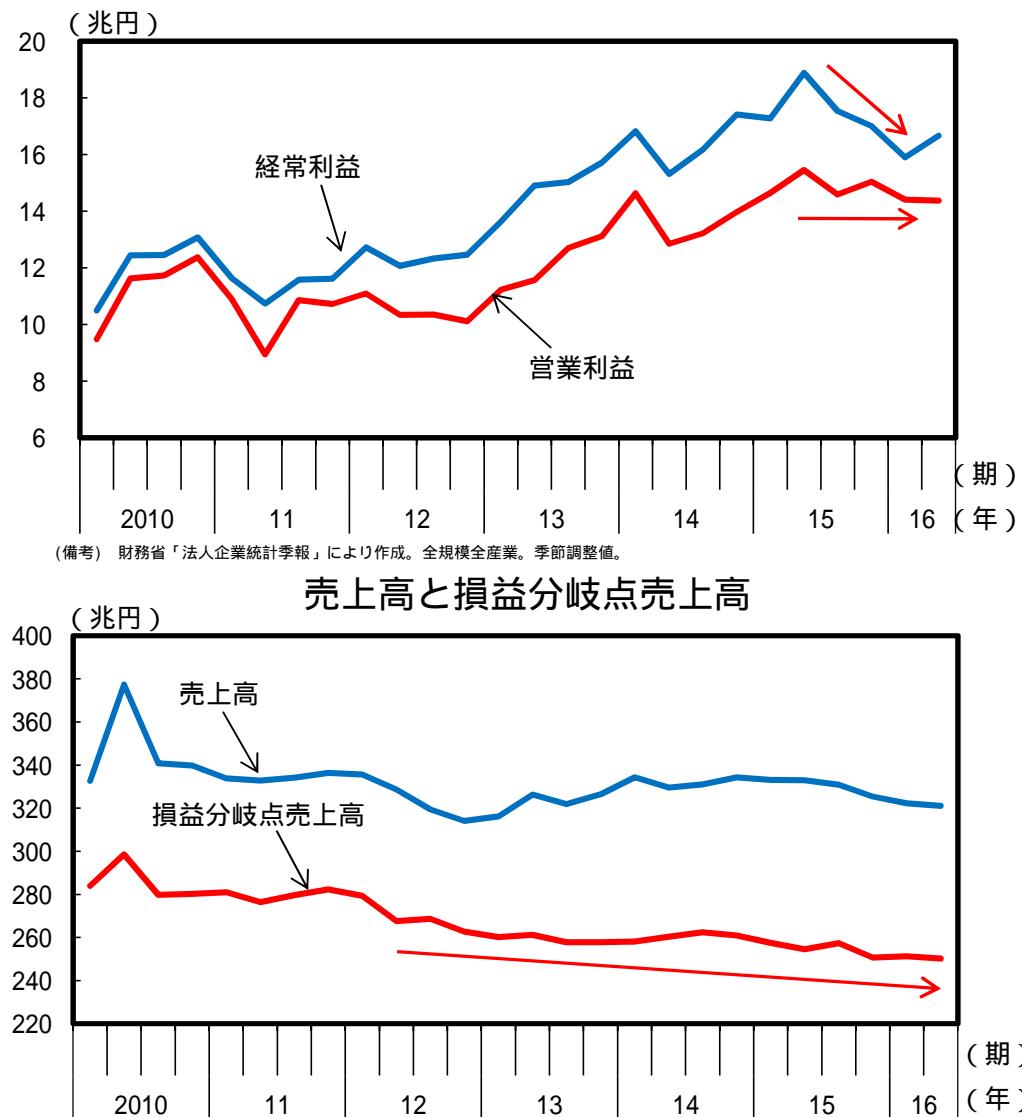


## 収益：企業収益は高い水準にあるものの、改善に足踏みがみられる

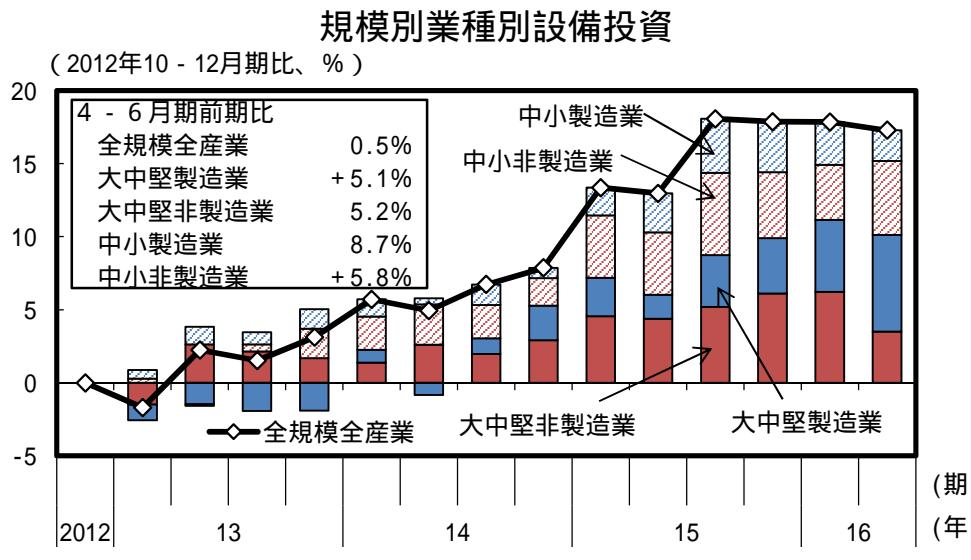
経常利益



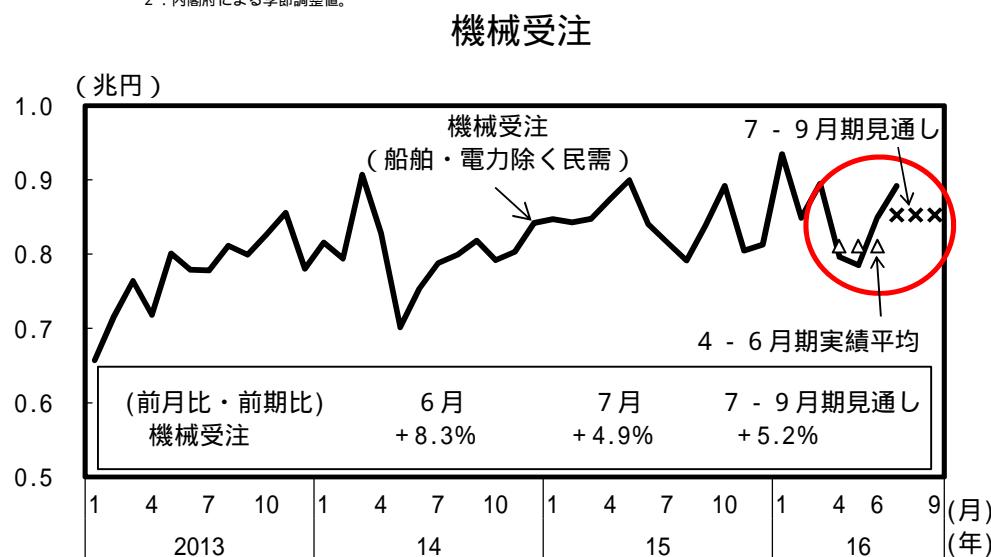
経常利益と営業利益



## 設備投資：持ち直しの動きに足踏みがみられる

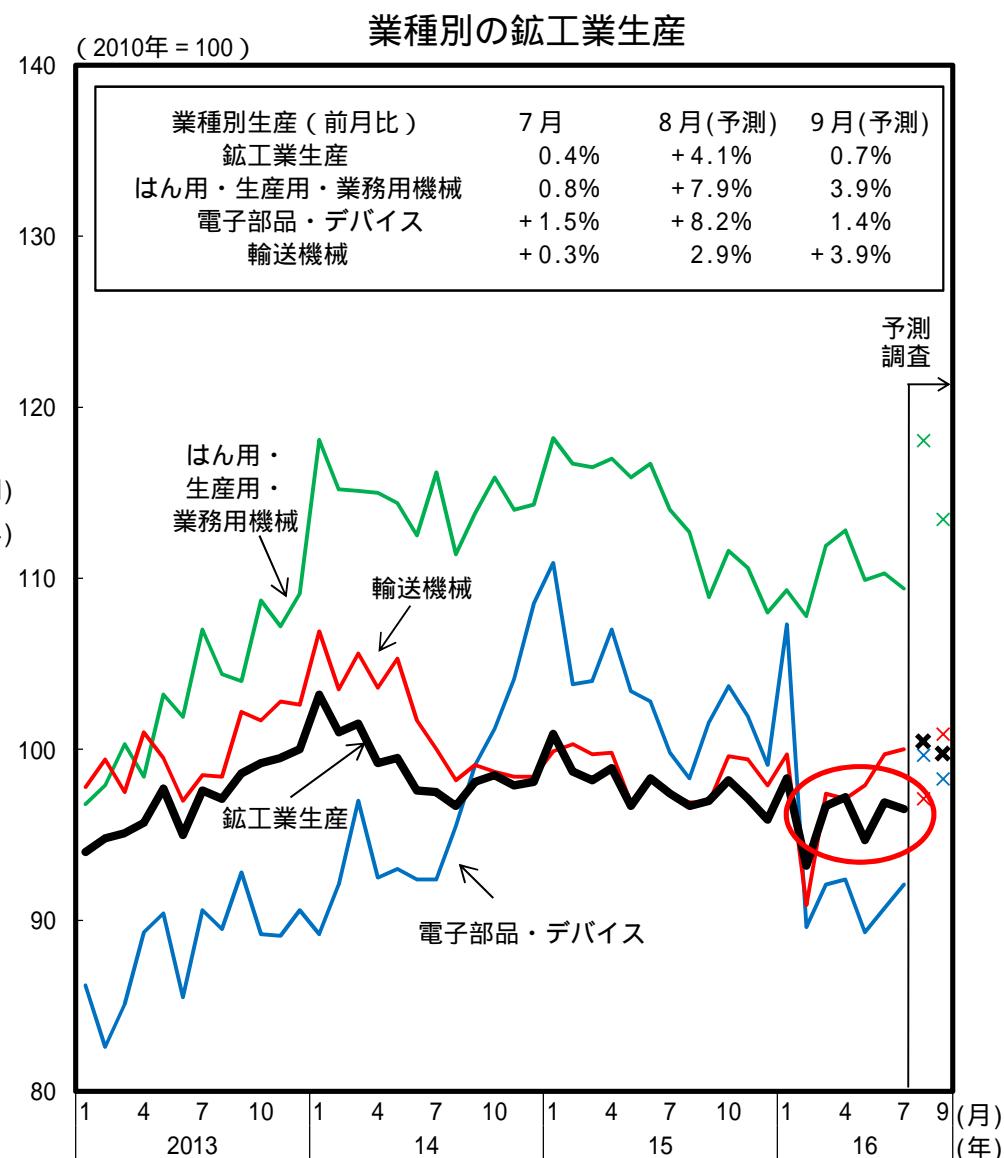


(備考) 1. 財務省「法人企業統計季報」により作成。  
2. 内閣府による季節調整値。



(備考) 1. 内閣府「機械受注統計調査」により作成。  
2. 船舶・電力を除くベース、季節調整値。

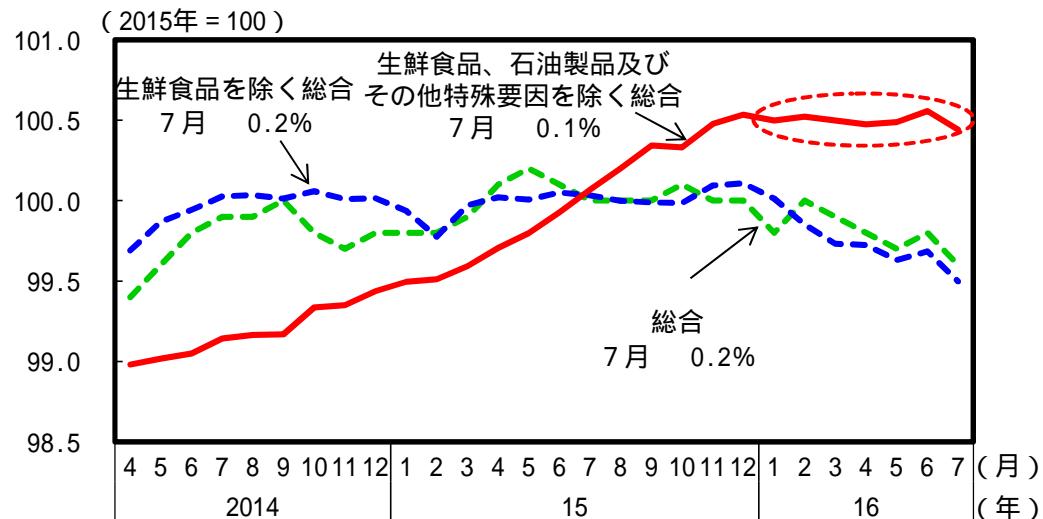
## 生産：横ばいとなっている



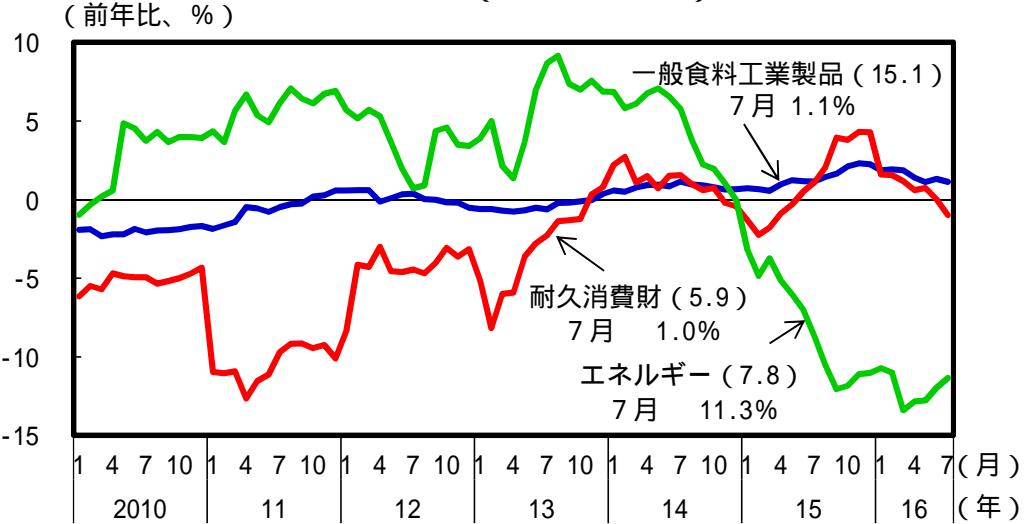
(備考) 経済産業省「鉱工業指数」により作成。季節調整値。8月、9月の数値は、製造工業生産予測調査による。

## 物価：消費者物価は横ばいとなっている

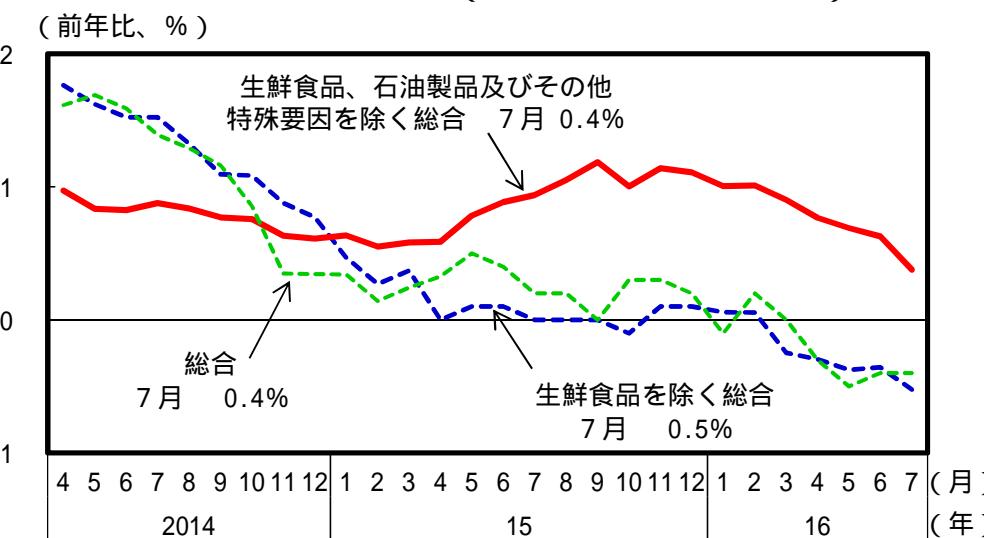
消費者物価指数



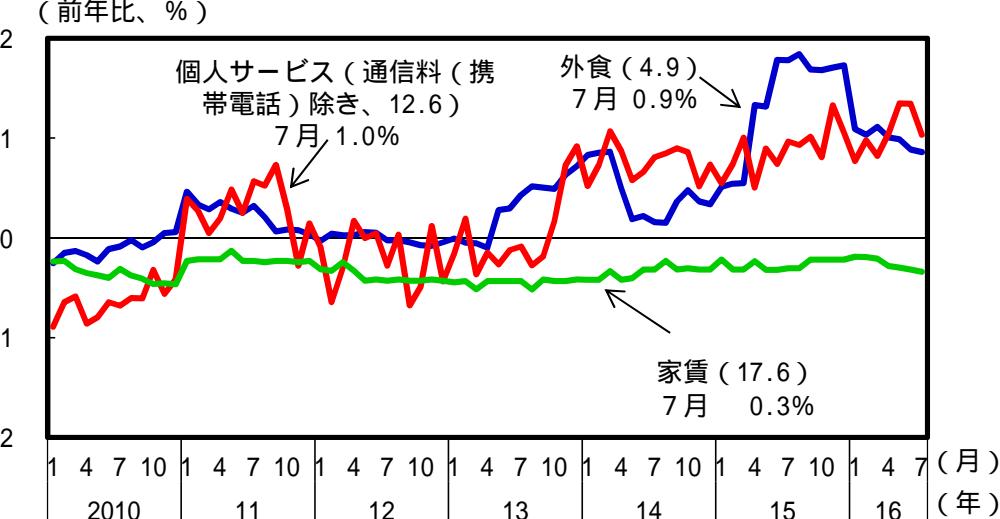
物価上昇率（消費税抜き）：財



消費者物価上昇率（消費税抜き・前年比）



物価上昇率（消費税抜き）：サービス



(備考) 1. 総務省「消費者物価指数」により作成。

2. 上図は、季節調整値。

3. 「生鮮食品を除く総合」(コア)及び「生鮮食品、石油製品及びその他特殊要因を除く総合」は連鎖基準方式。

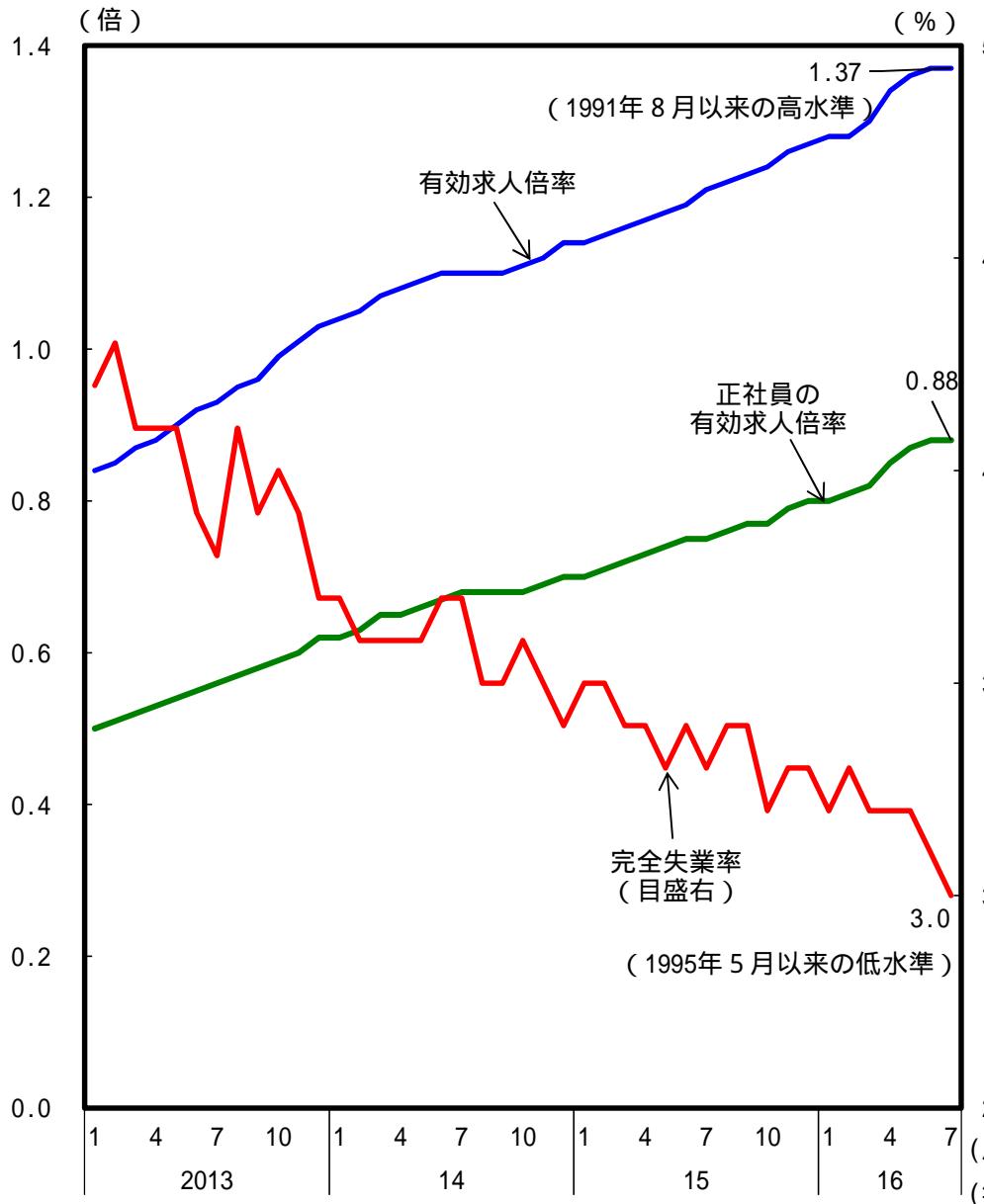
4. 「生鮮食品、石油製品及びその他特殊要因を除く総合」は、「生鮮食品を除く総合」(コア)から石油製品(ガソリン、灯油、プロパンガス)、電気代、都市ガス代、及びその他の公共料金等を除いたもの。

(備考) 1. 総務省「消費者物価指数」により作成。

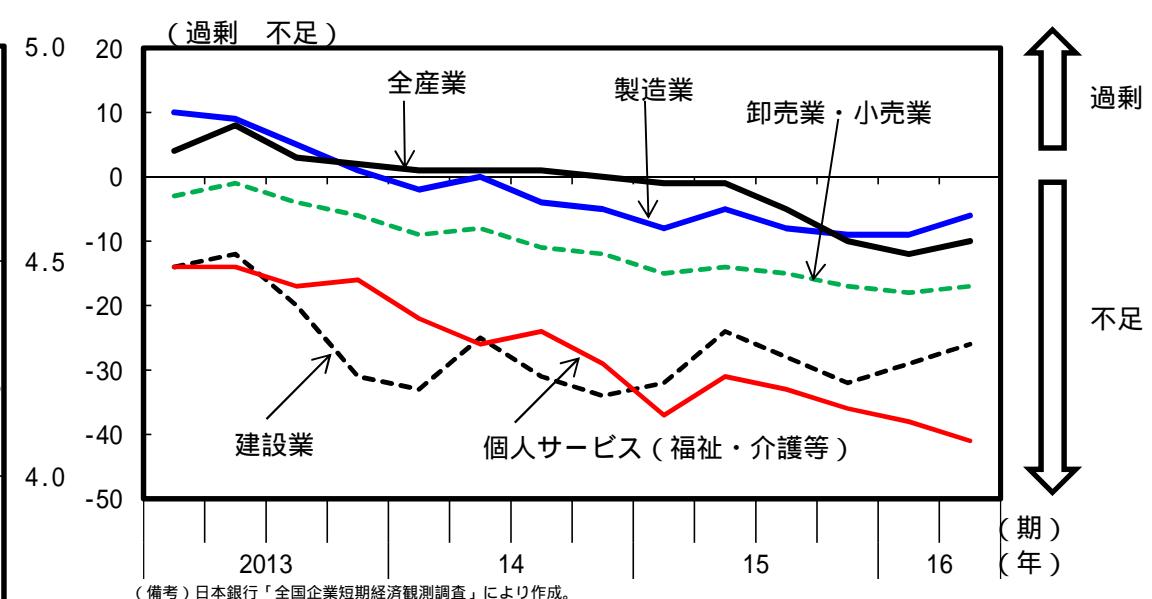
2. ( ) 内は、2015年基準における総合に対するウェイト。

## 雇用情勢：改善している

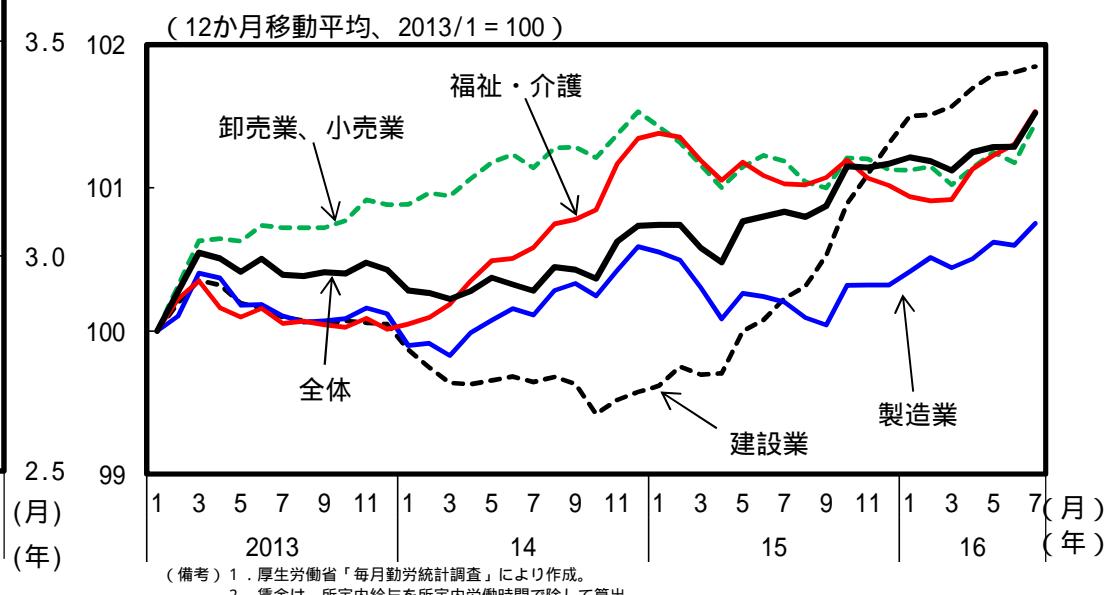
完全失業率と有効求人倍率（季節調整値）



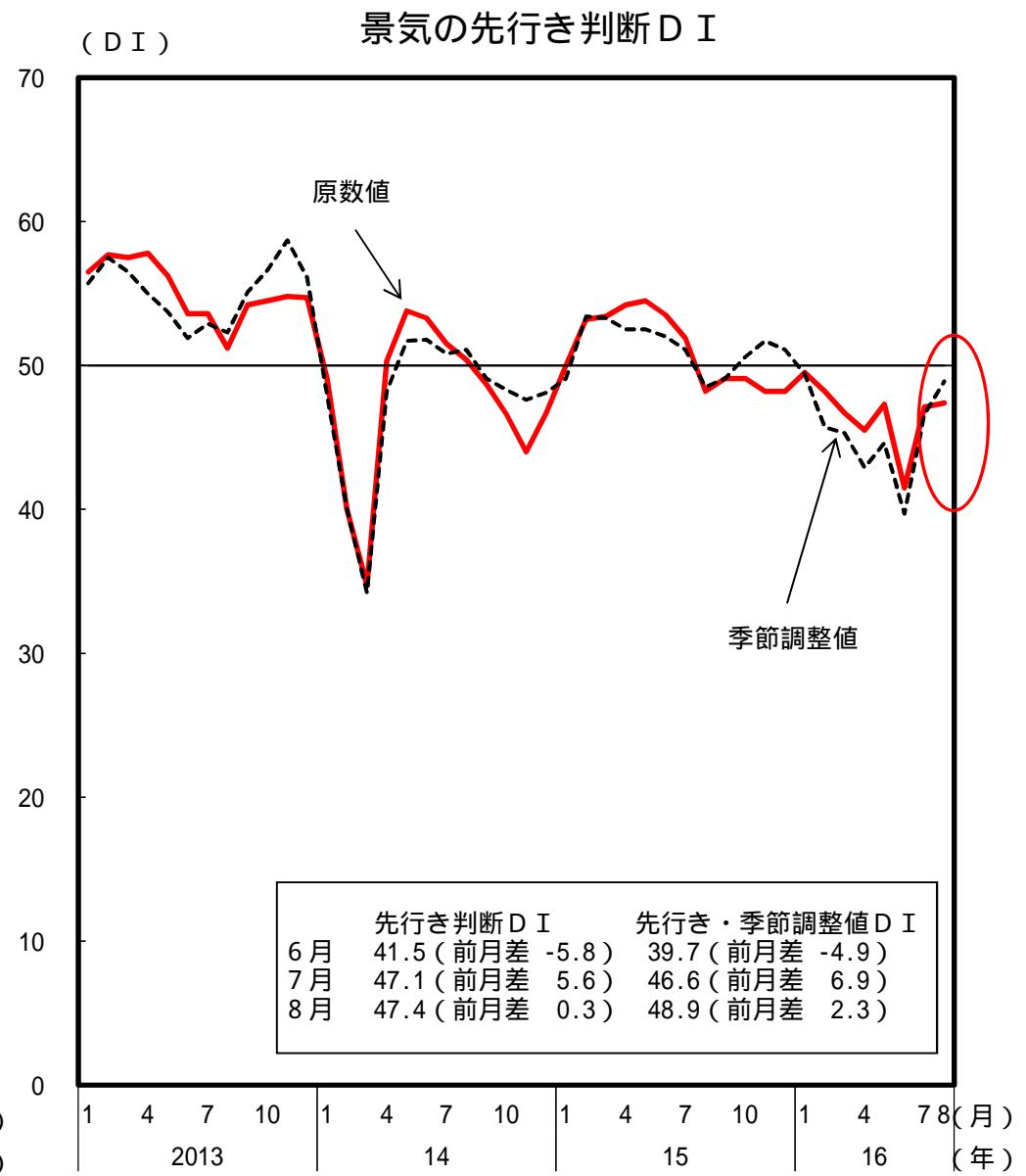
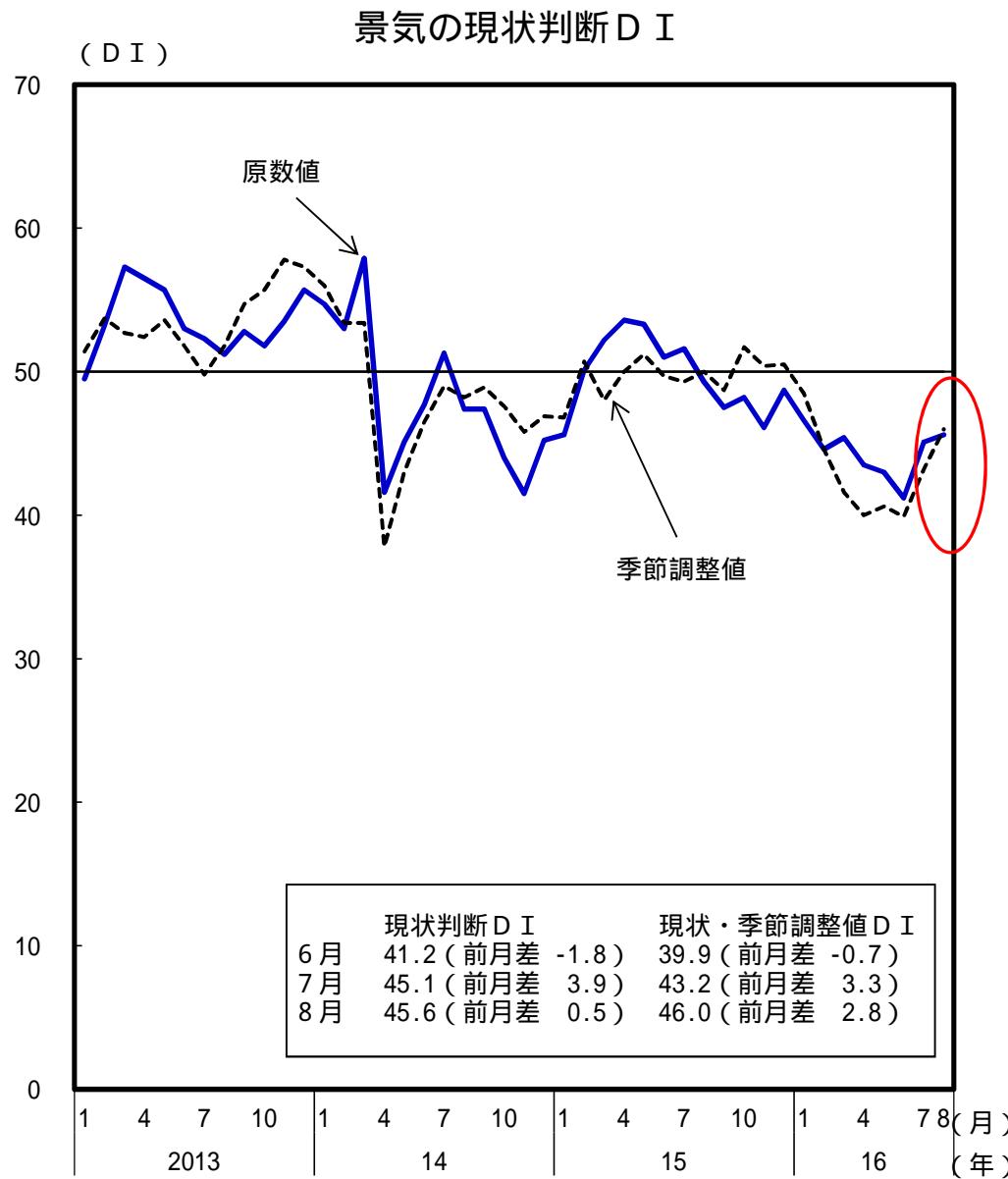
雇用人員判断 D I



産業別時間当たり賃金（一般労働者）



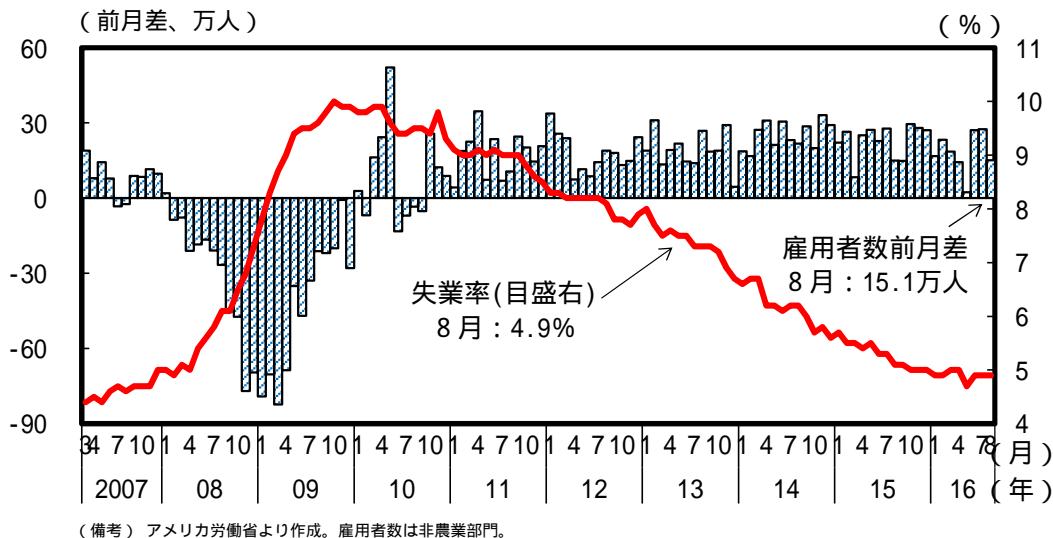
# 景気ウォッチャー調査



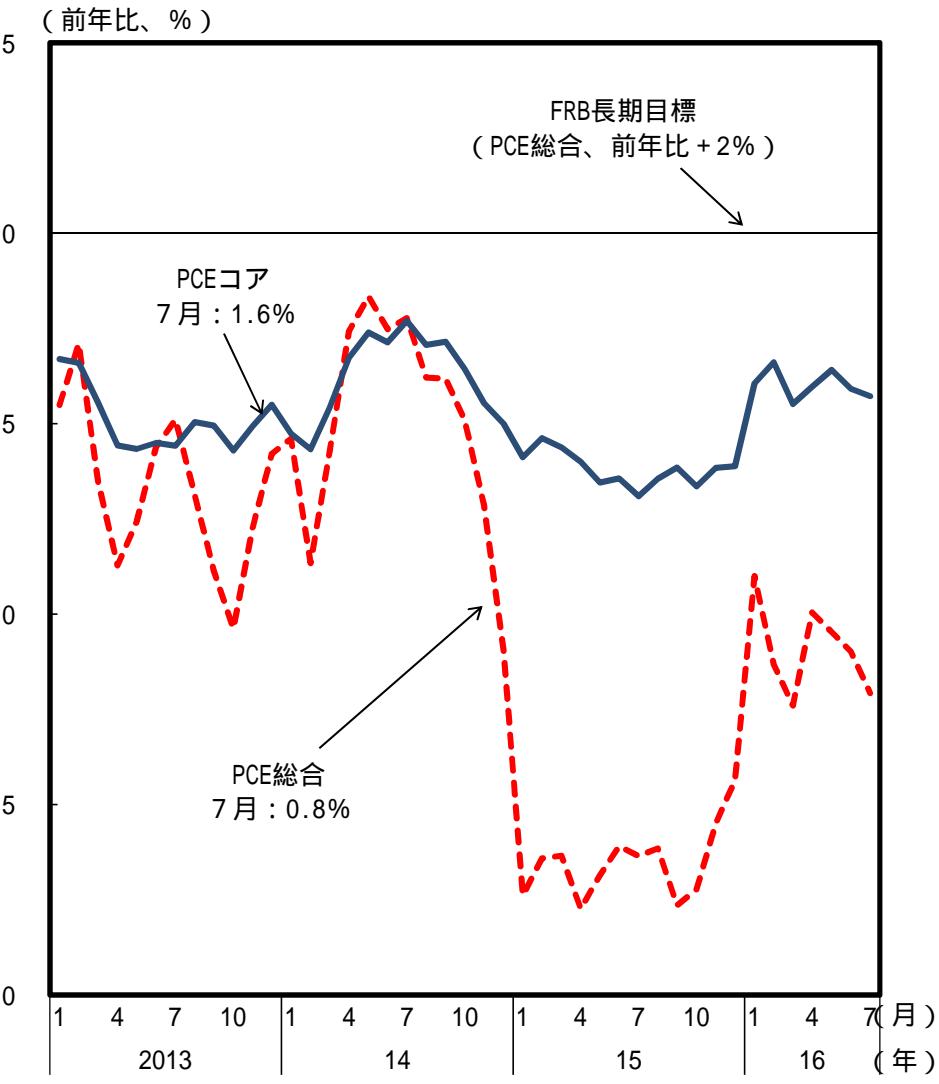
(備考) 内閣府「景気ウォッチャー調査」(2016年8月調査、調査期間：8月25日～31日)を基に作成。

# アメリカ経済：景気は回復が続いている

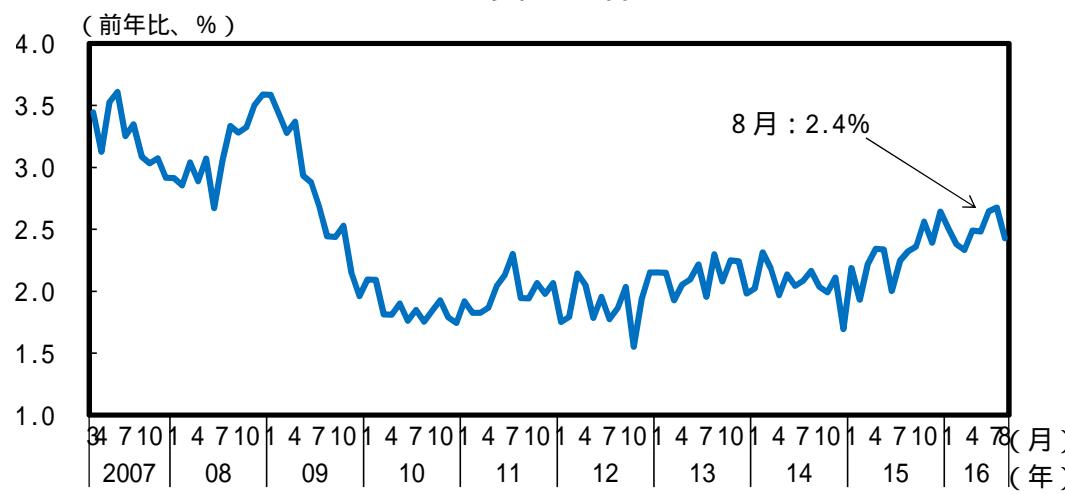
雇用者数前月差と失業率



物価（個人消費支出(PCE)デフレーター）

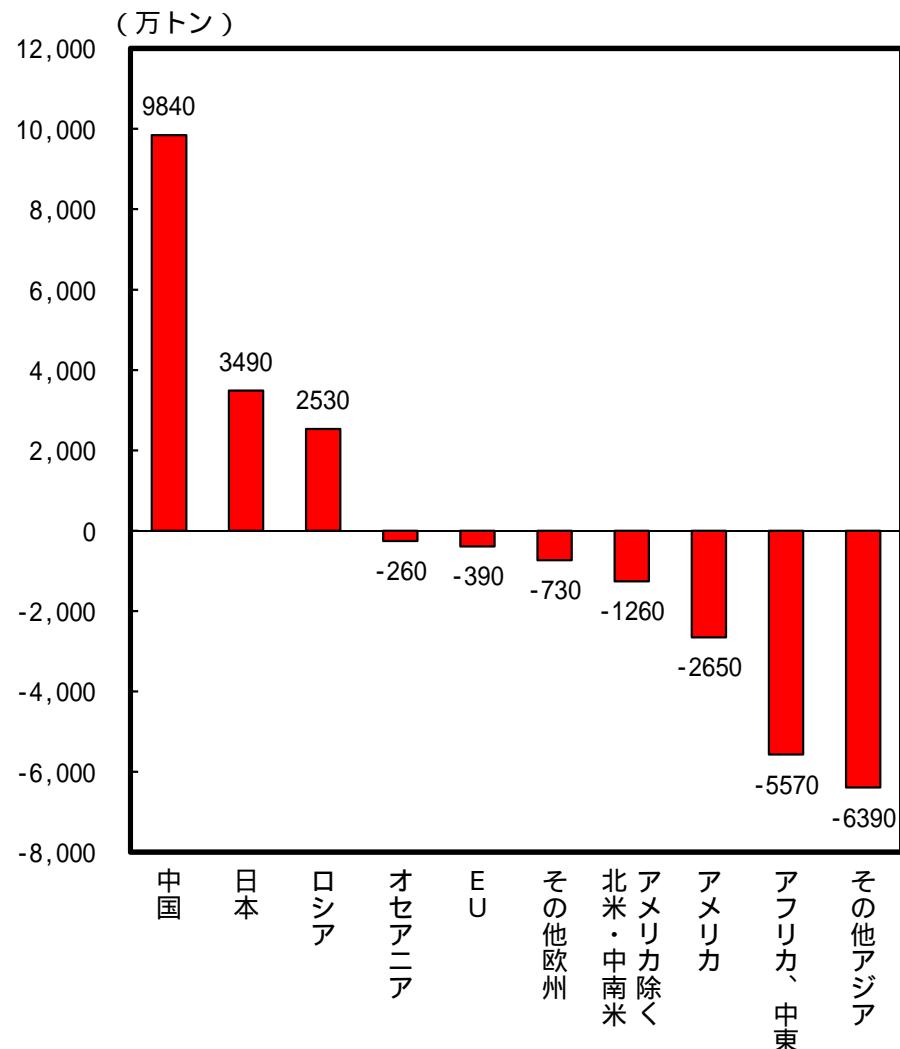


賃金の伸び

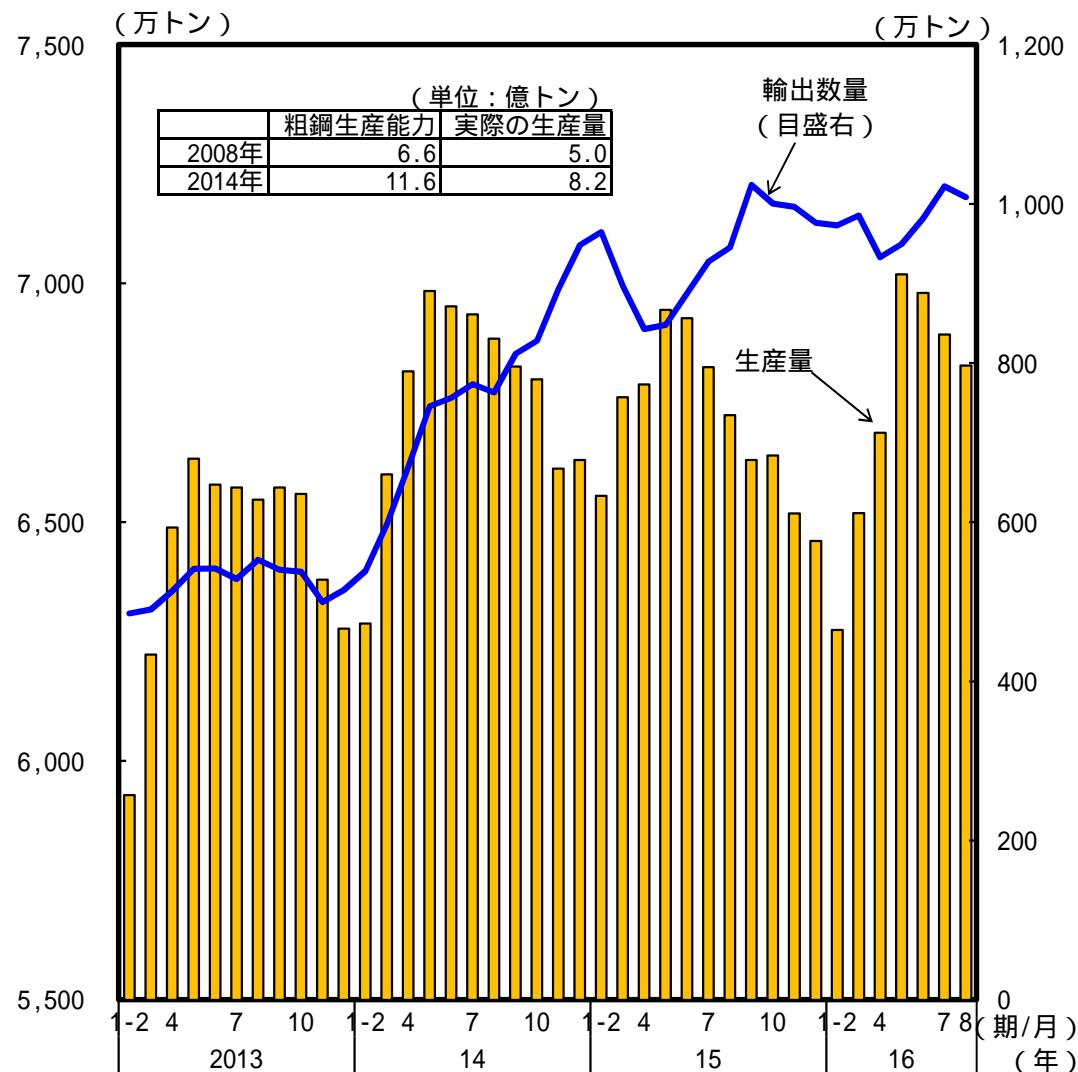


# 中国経済：景気は緩やかに減速

国・地域別鉄鋼純輸出（2015年）



鉄鋼生産と輸出



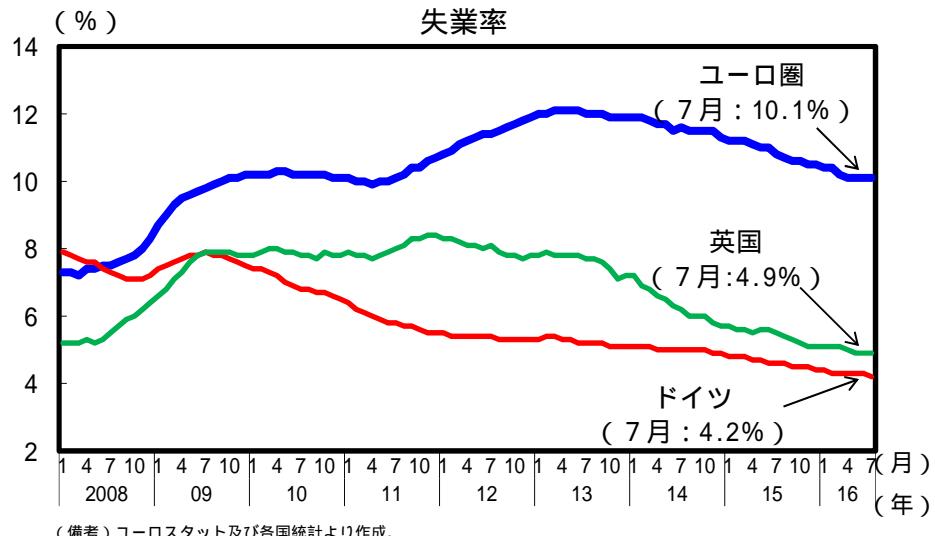
(備考) World Steel Association "World Steel in Figures 2016"より作成。

(備考) 1. 中国国家統計局、中国海關総署、中国工業・情報化部より作成。

2. 鉄鋼生産量、輸出数量ともに3か月移動平均、また1~2月は合算値。

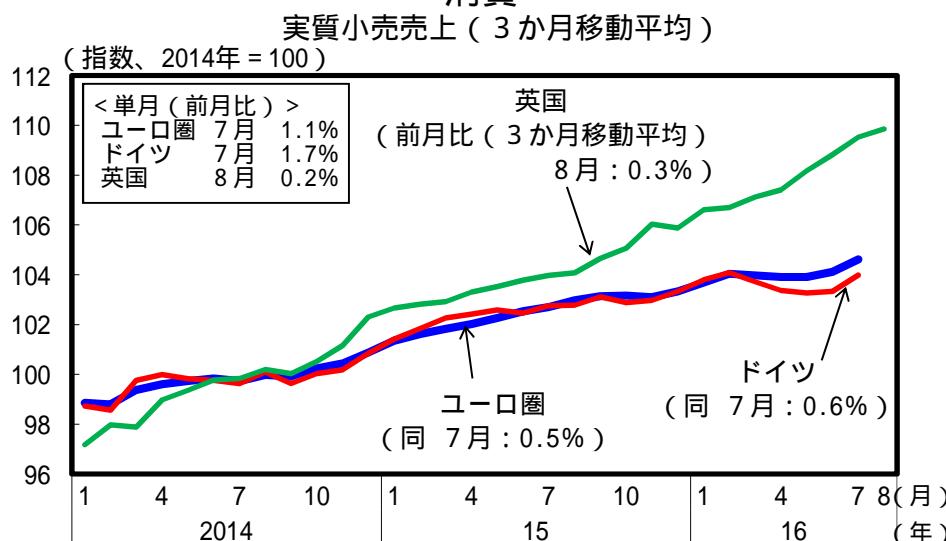
ヨーロッパ経済：ユーロ圏（景気は緩やかに回復）・英国（景気は回復）

雇用



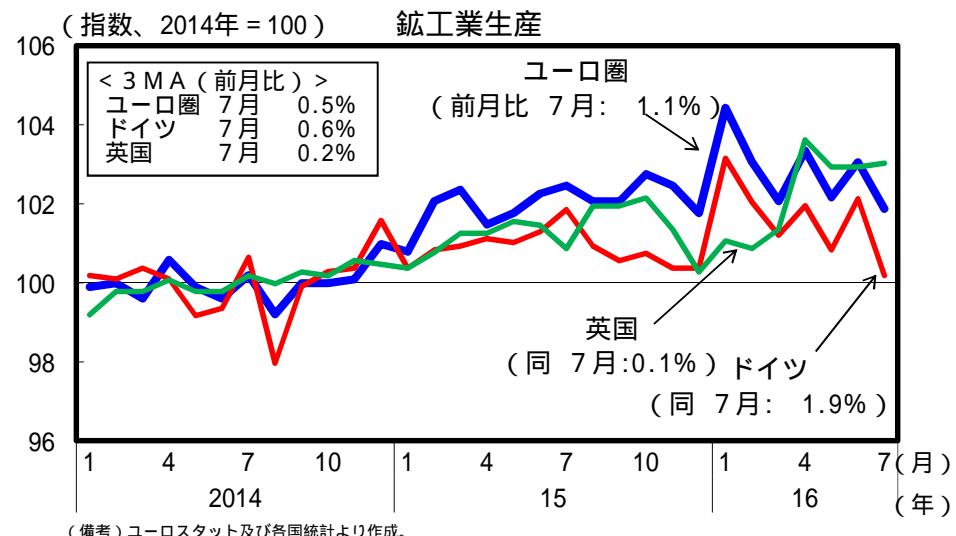
(備考) ユーロスタット及び各国統計より作成。

消費



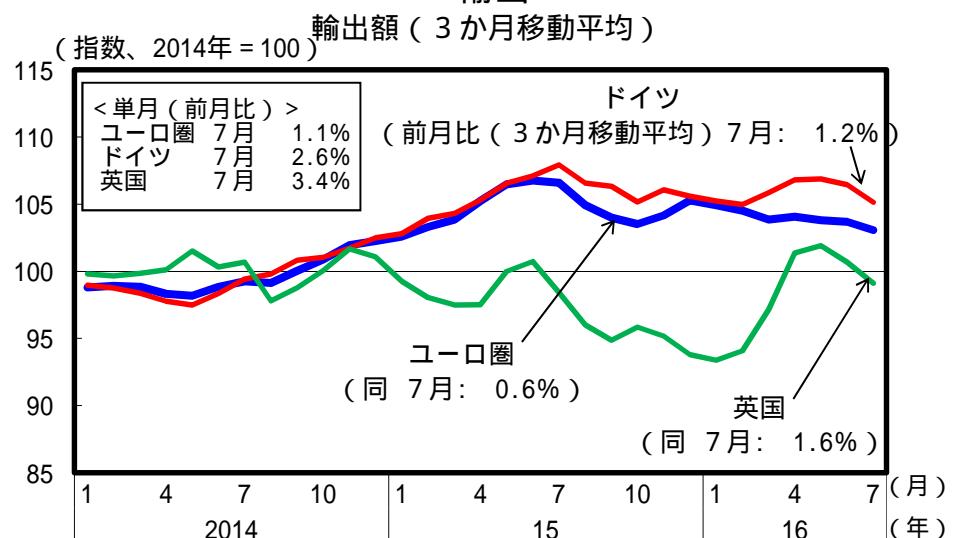
(備考) 1. ユーロstatt及び各国統計より作成。  
2. 自動車を含まない。

生產



(備考) ユーロスタット及び各国統計より作成。

輸出



(備考) 1. ユーロstatt及び各国統計より作成。  
2. ユーロ圏は圏外向けのみ